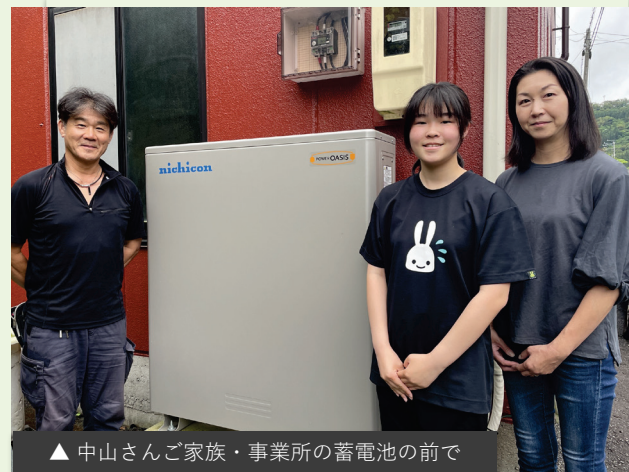


INTERVIEW

停電に、気づかなかった。

村の脱炭素事業を活用し、事業所と自宅に太陽光パネルと蓄電池を導入した中山さん。5月12日の夕方に村内で停電が発生した際も、暮らしへの影響は全くなかったと振り返ります。ご家族にインタビューして当時のお話を伺うとともに、無償で設置できる太陽光パネル・蓄電池のメリットを聞きました。



▲ 中山さんご家族・事業所の蓄電池の前で

Q：5月12日の停電、影響はありましたか？

一瞬パチッと落ちましたが、すぐに蓄電池へ切り替わったので、停電だとは思いませんでした。ちょうど夕飯どきでしたけれど、ご飯も問題なく炊けて、何の不便もなかったです。テレビの放送が止まっていて、それで初めて「停電だったのか」と気づいたくらいです。他の市では1時間ほど停電したそうですから、「導入しておいて本当によかった」と感じましたね。

Q：導入の決め手はどんな部分だったのでしょうか？

村内は倒木や大雨・大雪で停電しやすいので、以前から災害対策として導入したいと思っていました。そこに村の手厚い補助が出てきて、「渡りに船」のような状況でした。日中の停電ではPCが止まると困るので、会社の事務所にも設置しました。いくさかてらすさんは最初に工程表を持ってきて、進め方も丁寧に説明してくれたので、何の支障もありませんでした。

Q：これから導入を考える方へメッセージをお願いします。

山間部の生坂村だからこそ、受けられる恩恵は大きいと思います。防災・災害対策のひとつにもなりますから。電気への依存度が高くなっている現在、停電しても普段どおり暮らせるありがたみは非常に大きいです。季節や時間帯を問わず、いつ停電が起きても安心。「導入しない手はありません」というくらいの気持ちで、皆さんにもおすすめしたいですね。

中山さんも活用しています

太陽光パネル・蓄電池は、無償で設置できます。

(株)いくさかてらすのPPAプランに加入すると、設置費用の負担なし。中山さんのように、停電に強い暮らしを始められます。

株式会社いくさかてらす

TEL 0263-69-2388

村制施行70周年記念イベントに「脱炭素ブース」を設けます！

お知らせ

村の脱炭素事業を紹介する動画を、ICN自主放送で放映中。SNSやHPからもご覧いただけます。

HP



Instagram



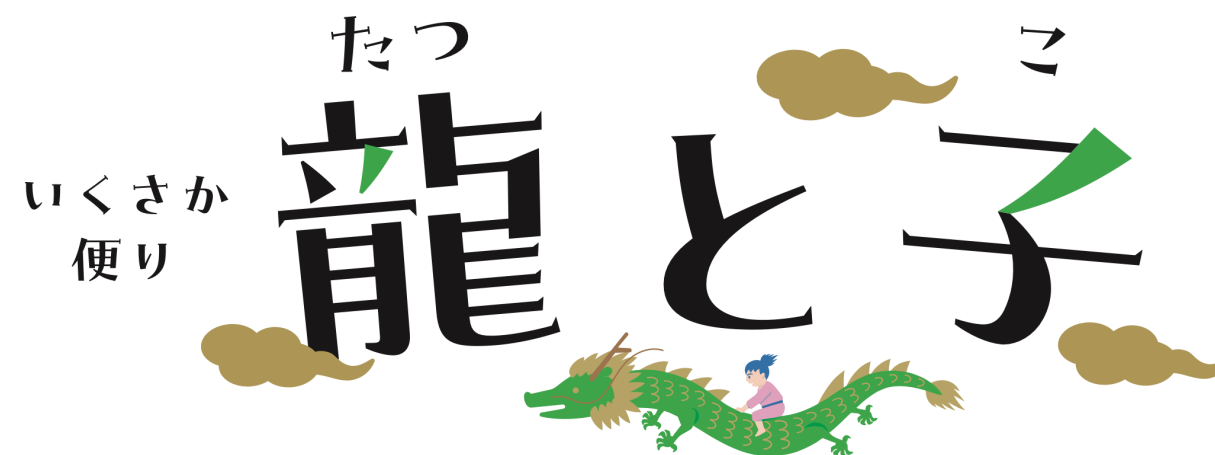
日時 8月8日(土) 午前中

場所 道の駅 いくさかの郷

内容 断熱改修補助の相談会 ほか

● EDITOR'S NOTE 編集後記

先日、取材のため役場担当者の車に同乗させてもらったところ、生坂ダムの上を車が通れるのを知って衝撃でした。「どこに連れて行かれるんだ…？」と不安になったのは秘密です。(大枝)



▲ 小水力発電所建設工事 安全祈願祭・起工式 (6月27日)

TOPICS / 今号の特集

特集・小水力発電所いよいよ着工
令和8年度 外部評価委員が決定

小水力発電事業の概要
8/8 70周年イベントに脱炭素ブース

vol.
31
2026 Jul.

小水力発電、いよいよ始動。



▲ 多くの関係者が出席した起工式

6月27日、小水力発電所の建設予定地（犀川左岸）で、建設工事安全祈願祭及び起工式が執り行われました。村の脱炭素先行地域づくり事業の中核となる「村の発電所」建設工事が、いよいよ動き出します。

この発電所は、生坂ダムの自主放流水を活用して電気をつくる「村の発電所」です。太陽光発電とは違って冬も夜間も天候に左右されず、安定して発電できるのが強み。

最大出力約96kW、年間発電量は約63万kWh。一般家庭約130戸分に相当し、マイクログリッドと組み合わせ、災害に強い村づくりを支えます。

藤澤村長は「脱炭素先行地域づくり事業は、単に二酸化炭素の排出を削減するだけでなく、地域資源を最大限活用しながら、災害に強く持続可能な地域づくりを実現するための取り組み」と述べ、「将来世代に誇れる村を築く重要な挑戦」と話しました。

単なる発電施設ではなく、エネルギーの地産地消と、災害時の電力確保を両立させる「村の暮らしの基盤づくり」。それがこの事業のポイントです。犀川とともに生きてきたこの村だからこそできる挑戦ともいえます。

式には地区住民と工事関係者、脱炭素先行地域の共同提案者をはじめ、国・県・村議会など関係者が列席しました。

完成は令和10年予定で、発電開始までは約2年。犀川の流れを村の力に変える挑戦が、また一歩前へ進みます。工事の進捗は、本誌でも継続してお伝えしていきます。



▲ 工事の始まりを告げる穿初の儀

犀川で発電する、地産地消のエネルギー

生坂ダムの自主放流水を活用して、村の電気を村でつくる。小水力発電事業の全体像をご紹介します。生坂ダム上流部で取水した水を、左岸に埋設する約216mの地中水圧管路を通して、同ダム下流部の左岸に建設する発電所へ送り、水車を回して発電を行います。発電した電気は、自営線マイクログリッドを通じて供給されます。

最大出力

96.0kW

比較的小さい水量でも安定した発電が可能なクロスフロー水車を採用

年間発電量

約63万kWh

一般家庭 約130戸分の年間消費量に相当

CO2排出削減量

約300t-CO2/年

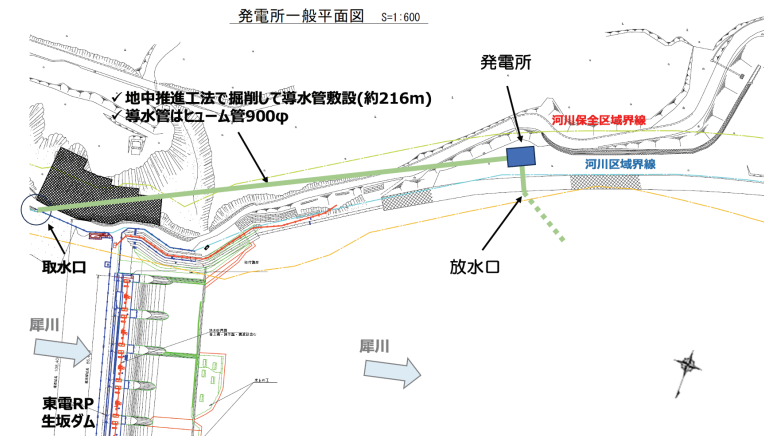
一般家庭約100戸分の年間排出量に相当

水源

犀川の水

東京電力RP(株)が生坂ダムから放流している自主放流水 1.3m³/秒を利用する

● 発電所の位置



● 冬も夜間も天候に左右されず、安定して発電。太陽光発電と補い合う関係です。

● 令和8年度は、推進工法による水圧管布設、取水口・放水口ゲート建設、発電所建屋建築等の工事を進めます。完成は令和10年度の予定です。

令和8年度 脱炭素事業の外部評価委員について

生坂村の脱炭素事業を評価する「外部評価委員」の令和8年度委員が決定し、7月3日に第1回委員会を開催しました。



委員長

法政大学社会学部社会学科 教授

茅野 恒秀 氏

生坂村区長会副会長

北澤 金善 氏

株式会社 牛越組

牛越 秀男 氏

姫野農園

姫野 小百合 氏

長野県環境部ゼロカーボン推進課長

龍野 真一 氏

● 第1回委員会（7月3日開催）での意見（抜粋）

- ・村外でも生坂村が環境省から高評価を得ている話は耳にする。
- ・カーボンニュートラル達成に向けての進捗率も他の自治体と比較して遜色ない。
- ・大きな事業が動いているのは分かるが、村民へのメリットが十分に分からないのでPRを充実させてほしい。
- ・特に難しいと言われている民家向けのPPAがここまで進んでいるのは驚きである。